

第45回

熊本救急・集中治療研究会

プログラム・抄録集

テーマ

COVID-19パンデミックから学ぶこと

会期 2023年2月11日(土・祝)

開催形式 完全WEB形式

配信会場 熊本市国際交流会館

当番会長 澤村 匡史 済生会熊本病院 集中治療室長

<https://kumakyu45.secand.net/>

第45回 熊本救急・集中治療研究会

プログラム・抄録集

テーマ

COVID-19パンデミックから学ぶこと

会期 2023年2月11日(土・祝)

開催形式 完全WEB形式

配信会場 熊本市国際交流会館

当番会長 澤村 匡史 済生会熊本病院 集中治療室長

事務局：熊本大学病院 救急部

〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
TEL: 096-373-5769 FAX: 0285-44-8365

運営事務局：学会サポートセンター熊本(株式会社コンベンションサポート九州)

〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1-14-35 クロススクエア熊本九品寺7F
TEL: 096-373-9188 FAX: 096-373-9191
E-mail: kumakyu45@higo.co.jp

<https://kumakyu45.secand.net/>

ご 挨拶



第45回熊本救急・集中治療研究会学術集会

当番会長 澤村 匡史 済生会熊本病院 集中治療室長

2023年も1ヶ月が過ぎ、熊本県内はCOVID-19の第8波がようやく感染者数の減少局面に入ったように見えますが、医療施設ではまだ気が抜けない状況が続いております。皆様には緊張感の続く中にも、必ず来る明るい未来への希望を胸に、診療に感染防止にと日々奮闘していることと思います。そのような中で、第45回熊本救急・集中治療研究会学術集会をオンラインで開催いたします。

本会は1973年に熊本大学麻酔科初代教授の森岡亨先生が会長をつとめられ第1回大会を開催、以後長きにわたって引き継いでこられた歴史があり、私が所属する済生会熊本病院でも第18回に初代循環器部長の早崎和也先生、第24回に中島昌道心臓血管外科部長、第31回には現救急部長の前原潤一先生も当番会長をつとめてこられました。私が本会の当番会長を仰せつかったのが、2020年2月の幹事・世話人合同会でしたが、その直後に熊本でCOVID-19の第1例目が診断され、その後のCOVID-19の広がりには皆様ご存知の通りです。各救急隊、医療機関は経験したことがない感染症の流行との戦いに、尽きることのない使命感で努力されてきたことと思います。そして、奇しくもCOVID-19は救急隊、救急診療、集中治療の重要性和難しさを実感し、また世間に知らしめる機会にもなりました。第45回大会は2度にわたり延期を余儀なくされましたが、本会は長年にわたり救急隊と病院の救急・集中治療に携わる方々が一堂に会して議論してきた貴重な会です。このような困難な事態であるからこそ、伝統を引き継ぐべきであると考え、なんとか開催にこぎつけることができました。これもひとえに皆様のおかげと、こころより感謝申し上げます。この3年の間にウイルスの変異が繰り返され感染力は強力になりましたが、皆様の努力に加え予防、診断、治療の進歩・工夫により感染状況が落ち着きをみせてきたこの機会に、これまでの経験で得られた様々な知見を持ち寄り、情報を共有し議論することは、これまで以上に熊本の医療の発展に寄与するものと思います。このようなことからテーマは「COVID-19パンデミックから学ぶこと」にしました。

プログラムですが、一般演題はCOVID-19、Non COVID Medical、Non COVID Co-Medicalの3セッションに分け、基調講演には、佐賀大学医学部救急医学講座教授 阪本雄一郎先生に「The 2030 World Sepsis Declaration 地域医療の一助」と題してご講演頂く予定です。

ポスターは「救急・集中治療のスタッフチームが(学びの)階段を昇った先、“COVID-19の向こうに待っている明るい未来”がイメージされています。この学術集会をおおいに盛り上げて頂き、伝統ある本会の再起動と、救急・集中治療に携わる皆様の明るい未来へと進む機会にして頂ければ幸いです。

歴代会長

第1回	森岡亨	熊本大学	1973年
第2回	赤木正信	熊本大学	1978年
第3～11回	勝屋弘忠	熊本大学	1979～1987年
第12回	木山程荘	熊本中央病院	1988年
第13～14回	勝屋弘忠	熊本大学	1989～1990年
第15～17回	岡元和文	熊本大学	1991～1993年
第18回	早崎和也	済生会熊本病院	1994年
第19回	近藤裕一	熊本市民病院	1995年
第20回	斉藤太郎	熊本中央病院	1996年
第21回	岡元和文	熊本大学	1997年
第22回	緒方康博	熊本赤十字病院	1998年
第23回	吉永健	熊本中央病院	1999年
第24回	中島昌道	済生会熊本病院	2000年
第25回	道越賢	熊本市消防局	2001年
第26回	木下順弘	熊本大学	2002年
第27回	井清司	熊本赤十字病院	2003年
第28回	佐藤俊秀	熊本市民病院	2004年
第29回	江崎公明	熊本医療センター	2005年
第30回	大嶋秀一	熊本中央病院	2006年
第31回	前原潤一	済生会熊本病院	2007年
第32回	神原節生	熊本市消防局	2008年
第33回	木下順弘	熊本大学	2009年
第34回	井清司	熊本赤十字病院	2010年
第35回	瀧賢一郎	熊本医療センター	2011年
第36回	満瀬哲郎	熊本市民病院	2012年
第37回	高井英二	熊本南病院	2013年
第38回	柳文治	熊本地域医療センター	2014年
第39回	笠岡俊志	熊本大学	2015年
第40回	成松紀子	熊本労災病院	2016年
第41回	廣瀬豊樹	国保水俣市立総合医療センター	2017年
第42回	高橋毅	熊本医療センター	2018年
第43回	西岡和男	熊本市消防局	2019年
第44回	奥本克己	熊本赤十字病院	2020年
第45回	澤村匡史	済生会熊本病院	2022年

幹事・事務局代表

代表幹事

熊本大学病院	救急部	教授	入江弘基
--------	-----	----	------

幹事

熊本大学病院	災害医療教育研究センター	教授	笠岡俊志
熊本大学病院	循環器内科	教授	辻田賢一
熊本大学病院	麻酔科	教授	平田直之
国立病院機構熊本医療センター	救命救急センター	院長	高橋毅
済生会熊本病院	救命救急センター	センター長	前原潤一
熊本赤十字病院	救命救急センター	センター長	奥本克己
熊本市民病院	救急科	科長	赤坂威史
熊本市民病院	総務企画課 兼 救急科		西岡和男
熊本赤十字病院	救命救急センター	看護師長	飯星里枝

会計監査監事

熊本大学病院	集中治療部	看護師長	吉里孝子
--------	-------	------	------

熊本救急・集中治療研究会 世話人名簿

医 師			
荒尾市民病院	救急科	部長	松園幸雅
熊本市医師会熊本地域医療センター	循環器内科	部長	平井信孝
熊本市医師会熊本地域医療センター	手術部	部長	柳文治
熊本市医師会熊本地域医療センター	小児科	部長	柳井雅明
熊本機能病院	救急科	理事長	米満弘一郎
熊本市民病院	救急科	部長	原田正公
熊本市民病院	救急科	医長	上園圭司
熊本赤十字病院	第一循環器内科	副院長	角田隆輔
熊本赤十字病院	第一小児科	部長	平井克樹
熊本総合病院	循環器内科	診療部長	小出俊一
熊本大学病院	集中治療部	講師	鷺島克之
熊本中央病院	呼吸器内科	部長	平田奈穂美
熊本中央病院	心臓血管外科	部長	柳茂樹
熊本中央病院	循環器内科	医長	渕上俊一郎
くまもと県北病院	糖尿病・内分泌科	副院長	松田浩史
熊本労災病院	麻酔科・集中治療部	部長	成松紀子
国立病院機構熊本医療センター	麻酔科	部長	瀧賢一郎
国立病院機構熊本医療センター	循環器内科	診療部長	藤本和輝
国立病院機構熊本医療センター	循環器内科	部長	田山信至

国立病院機構熊本医療センター	救命救急センター	センター長	櫻井聖大
済生会熊本病院	心臓血管センター 循環器内科	副院長	坂本知浩
済生会熊本病院	中央手術部	副院長	原武義和
済生会熊本病院	脳卒中センター 脳神経内科	部長	米原敏郎
済生会熊本病院	集中治療室	室長	澤村匡史
済生会熊本病院	心臓血管外科	部長	上杉英之
済生会熊本病院	脳卒中センター 脳神経外科	特別顧問	西徹
済生会熊本病院	脳卒中センター 脳神経内科	特別顧問	橋本洋一郎
済生会みすみ病院	循環器内科・心臓血管外科	院長	庄野弘幸
熊本泌尿器科病院	麻酔科	部長	城嘉孝
くまもと南部広域病院	外科・麻酔科	副院長	高井英二
保田窪整形外科病院	麻酔科		満瀬哲郎
水俣市立総合医療センター	循環器内科	副院長	廣瀬豊樹
山鹿市民医療センター	救命救急部	部長	吉岡明子
NPO 法人熊本 ACLS 協会(悠愛病院内)			田代尊久

看護師

熊本市医師会熊本地域医療センター			春田美樹
熊本赤十字病院	救命救急病棟	看護係長	赤池尋恵
国立病院機構熊本医療センター		副看護師長	今村祐太
済生会熊本病院	救急部	看護師長	西村摩里子
JCHO 熊本総合病院		副看護師長	前田稔
水俣市立総合医療センター	HCU病棟	副看護師長	中ノ上ともみ

消防関係

熊本市消防局	東消防署	副署長	朝倉一郎
熊本市消防局	東消防署	指導課長	吉野幸生
熊本市消防局	西消防署	池田庁舎管理者	橋本光司
熊本市消防局	総務部総務課	副課長	池松英治
熊本市消防局	北消防署	警防課課長代理	宮本和臣

研修会当日のご案内

◆参加される方へ

1. Zoom を利用した WEB 開催となります。
2. 午前9:40より Zoom の接続を開始いたします。
3. 参加費は1,000円です(事前参加登録が必要です)。

◆座長の方へ

1. セッション開始10分前までにご入室ください。
2. 各セッションの進行は座長にお任せいたします(時間厳守をお願いします)。
3. 質疑応答は、Zoom のチャット機能もしくは挙手機能を利用いたします。

◆演者の方へ

1. セッション開始の10分前までに、Zoom への接続をお願いいたします。
2. お名前は「演題番号 氏名」へ変更をお願いいたします。
3. 座長より指名されましたら画面を共有したのち、発表を開始してください。

〈発表に関する事項〉

1. 午前中の演題は発表(6分) 討論(2分)の1演題8分です。制限時間を厳守ください。
2. スライド発表中のスライドショー操作は演者ご自身でお願いします。

プログラム

9:40～ **入場開始**

10:00～10:05 **開会の辞**

当番会長：澤村 匡史（社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 集中治療室）

10:05～10:55 **セッション A [COVID-19]**

座長：赤坂 威史（熊本市立熊本市市民病院 救急科）

01 10年間放置されてしまったワクチンの課題

熊本市立熊本市市民病院 西岡 和男

02 COVID-19パンデミックにおける救急搬送困難事案からみる救急活動

熊本市消防局 東消防署 警防課一部 東第一救急小隊 松本 章寿

03 遠隔モニタリング導入後の急変事例を振り返って

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 救命救急病棟 上野 愛歩

04 重症 COVID 患者受け入れに伴う救命救急病棟における重症患者対応への体制構築

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 救命救急病棟 柴尾 嘉洋

05 COVID-19 クリニカルパスの作成と運用

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 臨床工学部 木村 淳一

**06 COVID-19蔓延状況に応じた持続可能な COVID-19 診療体制の再構築とその効果
—新たなパンデミックに備える為に—**

熊本赤十字病院 救急科 岡野 雄一

11:00～11:50 **セッション B [Non COVID-19 Medical]**

座長：成松 紀子（熊本労災病院 集中治療部）

07 回転性めまいを主訴に救急搬送された不安定狭心症の一例

熊本大学病院 救急部 高木 友理子

08 急速進行性の呼吸不全と心停止を来した両側椎骨動脈解離の一例

熊本赤十字病院 救急科 福本 綾香

09 川で溺水後に Chromobacterium violaceum 敗血症を呈して死亡した一例

熊本赤十字病院 小児科 山本 隼吾

- 10** 大動脈弁狭窄症を伴う急性心筋梗塞に対して
経皮的動脈弁置換術並びに Impella5.5 を挿入し救命した一例
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 集中治療室 中山 智子
- 11** 弁膜症または心筋症による低左心機能症例の周術期管理において
Impella5.5 が有効であった一例
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 心臓血管外科 手塚 大樹
- 12** 慢性心不全及び間質性肺炎の終末期状態の患者に
集中治療室で初期から緩和治療を行った一例
熊本中央病院 循環器内科 東 隆大

12:00～13:00 **基調講演** [ランチョンセミナー]

座長：佐藤 友子 (社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 救急部)

The 2030 World Sepsis Declaration 地域医療の一助として

阪本 雄一郎

佐賀大学医学部 救急医学講座

共催：旭化成ファーマ株式会社

13:10～13:40 **幹事・世話人会**

13:45～14:41 **セッション C** [Non COVID-19 Co Medical]

座長：入江 弘基 (熊本大学病院 救急部)

- 13** タスクシフトと病院救急救命士ネットワークの必要性
熊本市立熊本市民病院 西岡 和男
- 14** 臨床工学技士が搬送用人工呼吸器を用いて対応する呼吸管理の現状について
～救急外来対応を中心に～
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 臨床工学部門 矢ヶ部 駿真
- 15** 低酸素脳症後、Lance-Adams 症候群を呈した患者に対する
急性期リハビリテーションの経験
社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 リハビリテーション部 内田 悠太

16 劇症型心筋炎発症後に ICU 関連筋力低下を合併した症例

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 リハビリテーション部 中田 大揮

17 急性胆嚢炎と整形外科疾患との関連について

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 リハビリテーション部 柳川 隆太

**18 新規導入された CLAP 療法により、
THA 再々置換術後感染後もインプラントを温存したまま良好な転帰を得た一例**

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 リハビリテーション部 佐藤 滉一郎

**19 集中治療室でのオンライン面会の現状と今後の展望
—多職種連携と意思決定に寄り添った面会の実施に向けて—**

社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 集中治療室 ヒューストン 裕子

14:41～14:50 **代表幹事挨拶**

当番会長：入江 弘基（熊本大学病院 救急部）

14:50～ **開会の辞**

当番会長：澤村 匡史（社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 集中治療室）

抄 録



The 2030 World Sepsis Declaration 地域医療の一助として

阪本 雄一郎

佐賀大学医学部 救急医学講座

2017年にWHOは、敗血症の改善、予防、診断、管理の決議を採択し、敗血症を世界的な健康優先事項とした。また、敗血症は、早期に認識されず、すみやかに治療されない場合、ショック、多臓器不全、死につながる可能性がある。世界的に敗血症治療への注目度が上がっている中で我が国や諸外国での現状や今後の展望などを述べる。また、我々の地域、佐賀県における敗血症の長期予後に関する実情と今後の地域貢献も踏まえて検討している内容を紹介する。救急・集中治療の診療においても各地域で工夫が必要であったCOVID-19に関する佐賀県及び当院高度救命救急センターの工夫を紹介する。

また、敗血症診療における診断、高齢化社会における敗血症対応のポイントの一つと考えられる集中治療室管理におけるせん妄予防、更に当院における外傷症例に関するせん妄予測スコアの確立や敗血症も含む重症症例の管理についても自験例として示す。

最後に敗血症において重要な治療戦略の一つと考えている凝固障害に関する治療の現状やポイントと考えている内容を示す。

略 歴

1993年5月	佐賀大学附属病院 一般・消化器外科 研修医
1994年4月	佐賀県立病院好生館 外科 研修医
1995年4月	副島病院 外科 医員
1996年4月	佐賀大学 一般・消化器外科 医員
1997年4月	唐津赤十字病院 外科 医員
1998年4月	佐賀大学 一般・消化器外科 医員
1999年4月	佐賀大学 一般・消化器外科 研究生
2001年6月	佐賀大学附属病院 一般消化器外科 医員
2002年9月	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 助教
2008年4月	日本医科大学千葉北総病院 救命救急センター 病院講師
2010年3月	佐賀大学医学部 非常災害医療学講座(寄附講座) 教授
2010年8月	佐賀大学医学部 救急医学講座 教授
2020年10月	佐賀大学医学部附属病院 病院長特別補佐兼任

- ・日本救急医学会 専門医、指導医、評議員
- ・日本集中治療学会 専門医、評議員
- ・日本外傷学会 専門医、評議員
- ・日本航空医療学会認定 指導医、評議員
- ・日本外科学会 認定医
- ・Acute care surgery 学会 認定外科医、認定外科医制度委員会、編集委員会
- ・日本急性血液浄化学会 認定指導者、理事、評議員
- ・日本救急医学会 教育・研修統括委員会委員長、専門医試験検討委員会、
救急統合データベース活用管理委員会、個人情報保護委員会、院外心停止例救命のための効果的
救急医療体制・治療ストラテジの構築に関する学会主導研究推進特別委員会
- ・日本腹部救急医学会 腹部救急暫定教育医・腹部救急認定医、評議員、編集委員
- ・日本臨床外科学会 評議員
- ・日本外傷学会 評議員、トラウマレジストリー検討委員会、
損保助成金事業対象施設選考委員会、編集委員会
- ・日本ショック学会 評議員
- ・日本在宅救急医学会 理事
- ・日本急性血液浄化学会 学術委員会・保険委員会、編集委員会
- ・日本救命医療学会 理事、評議員、規約改正委員
- ・日本臨床救急医学会 評議員
- ・日本高気圧環境・潜水医学会 評議員
- ・日本臨床高気圧酸素・潜水医学会 理事、評議員、評議員選出委員会
- ・日本外科学会 Case Report 誌編集委員
- ・公益社団法人 Civic Force(緊急即応チーム) 理事
- ・日本救急医学会九州地方会 評議員、幹事、編集委員長
- ・日本航空医療学会 編集委員、査読委員
- ・日本エンドトキシン自然免疫研究会 理事、代議員
- ・九州高気圧環境医学会 評議員、編集委員長
- ・日本病院前救急診療学会 評議員
- ・体液代謝管理研究会 評議員
- ・エンドトキシン血症救命治療研究会 幹事、炎症と免疫 編集アドバイザー
- ・自動車技術会 交通事故傷害予測と予防・医療に関する検討委員会
- ・PHR 普及推進協議会 理事、Thrombosis Medicine 編集委員、
医学系 OSCE 事後評価解析小委員会課題改訂専門部会委員

セッション A [COVID-19] 10:05～10:55

座長：赤坂 威史(熊本市立熊本市民病院 救急科)

01

10年間放置されてしまったワクチンの課題

○西岡 和男

熊本市立熊本市民病院

感染症への対応策としてワクチン対策は重要である。

新興感染症に対するワクチンについては、2009年に発生した新型インフルエンザにおいて、パンデミックワクチンに先行して特定接種の対象者に使用されるプレパンデミックワクチンなど、その安全性や特定接種の優先順位などで大きな混乱が発生したことを経験している。しかしながら、この経験は Covid19 に十分に活かされていない。このようなことから、新型インフルエンザなど将来の新興感染症に備え、核となるワクチン対策の方針を決定しておく必要がある。

02

COVID-19 パンデミックにおける救急搬送困難事案からみる救急活動

○松本 章寿¹⁾、寺田 幹史²⁾

1)熊本市消防局 東消防署 警防課一部 東第一救急小隊、2)熊本市消防局 警防部 救急課 救急管理班

熊本市消防局では12月20日現在、42,031件と過去最高の救急出場件数を記録している。救急件数の増加だけでなく、COVID-19の陽性者や疑われる傷病者の増加により救急活動は困難を極める。

救急搬送困難事案をみると、COVID-19第7波の8月に現場滞在時間1時間以上(以下、長期滞在)113件、病院問い合わせ回数4回以上が475件(うち10回以上60件)発生。直近の12月でも長期滞在63件、問い合わせ4回以上が407件(うち10回以上67件)発生。COVID-19の感染者数増加と共に、医療機関の医療従事者や病床の確保が困難となり、救急搬送困難事案に反映されている。

そこで宮城県、香川県、千葉市などで導入されている医療機関と救急隊のタブレットによる情報共有システムの導入を提案する。同システムの導入により、複数の医療機関が患者の状態をタブレットで確認でき、リアルタイムで受け入れ状況を更新することで、電話連絡回数が減少し双方の負担軽減に繋がると推測する。

第45回熊本救急・集中治療研究会
プログラム・抄録集

大会長：澤村 匡史

事務局：熊本大学病院 救急部
〒860-8556 熊本市中央区本荘1丁目1番1号
TEL：096-373-5769 FAX：096-373-5772

運営事務局：学会サポートセンター熊本
(株式会社コンベンションサポート九州)
〒862-0975 熊本市中央区新屋敷1-14-35
クロススクエア熊本九品寺7F
TEL：096-373-9188 FAX：096-373-9191
E-mail：kumakyu45@higo.co.jp

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>